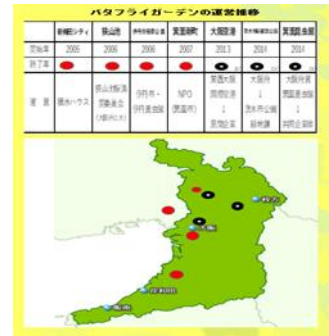


1. バイオガーデンの現状は？

バイオガーデンとは、「ピオトープ（生き物の住む場所）」+「ガーデン」の造語です。バイオガーデンの代名詞になっている「バタフライガーデン」は、主に蝶（チョウチョ）を楽しむ庭である。日本では、今から 25 年ほど前にブームとなり、全国で作られ始めた。しかし、バイオガーデンといえばバタフライガーデンというほど有名なわりには、一般に普及していない。大阪近郊の公共の場所でのバタフライガーデンの現状は、図-1 の通りである。バタフライガーデンがあまり作られ（普及し）ていない理由として、①チョウを楽しむマニアックな庭である ②維持管理が難しい（管理に専門性が必要）③庭として美しくない（美しい時期が限られる） 事が考えられる。



2. 新しいバイオガーデン（ハニービーガーデン）を作る

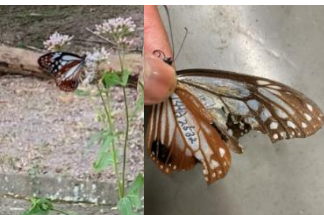
園芸デザイン部では、ミツバチが利用する植物を使用した庭、『バイオガーデン』作りに取り組んでいます。これはバタフライガーデンの問題点を改良した庭である。特徴として次の3点が上げられる、

- ① 管理が簡単なバイオガーデン：ガーデニングが好きなら OK。ナチュラルガーデン的な庭で管理が簡単なガーデンで、ミツバチをはじめ多くの種類のハナバチやチョウチョがやってくる。
- ② 花が咲き続ける庭：宿根草を中心に、一年草や花木を組み合わせることで、花を長い期間楽しむことができる美しい庭。
- ③ 花以外も楽しめる庭：ハーブ類や小果樹を組み合わせることで、庭で育てた植物でジャムやハーブティーを作れる。

3. 実施 ハニービーガーデンの制作

5種類にモデルガーデンを制作した。2例を紹介する。

- ① 赤系の植物を使ったハニービーガーデン（各種トウガラシ・高生アゲラタム・サルビア・フジバカマを使用）
- ② 青系の植物を使ったのハニービーガーデン（アゲラタム・シナモンバジル・セージ（ピックブルー）を使用）



①のガーデンに植栽されているフジバカマ（園芸種 ユーパトリウム・チョコレート）にアサギマダラが訪花した(2021.10.25)。

4. ハニービーガーデンの普及へ

ハニービーガーデンはバタフライガーデンの短所を改善した新しいバイオガーデンである。多くの生き物が訪れる、小さくても自然を感じる事が出来るこの庭を、池田（家庭の庭）の地から、日本中に普及させていきたい。

自然に親しむ「ハニービーガーデン」

本校は、3学科（フラワーファクトリ科・環境化学科・バイオサイエンス科）に分かれています。私が所属している、フラワーファクトリ科園芸デザイン専攻では、草花栽培のほか、アロマ、フジバカマの栽培も行い、都市型小規模農業の普及について研究しています。その一環として、蜜源植物を多用した、ミツバチのための「ハニーガーデン」を制作しています。ハニーガーデンは、生き物の住みやすいという環境を持つ「オート」に「アナン」を組み合わせ、ミツバチのための花壇が普及するには、人間にとってもメリットが必要で、そこで「管理が簡単な」①花が咲き続ける ②花以外の楽しみも期待できる」を本校として作庭制作を考えました。ナチュラルガーデンにすることで手入れが簡単化され、宿根草と一年草を組み合わせることで長い期間花が楽しめます。また、レモンとレモン系のハーブ類を組み合わせることで、マイマレードやハーブティーをつくって楽しむことができます。私たちはこれらの庭を「ハニービーガーデン」と名付けています。

私たちは地域の保育園でハニービーガーデンを紹介するとともに、「フジバカマ」を販売し、を行いました。園芸部には「フジバカマ」を販売し、園芸部のミツバチを熱心に見つめて、特に蜂蜜採取体験は大評判でした。その他地域の保育園をめぐり、この企画をすすめています。また、コロナ禍の影響で延期になりましたが、自宅の庭に、生き物が訪れる、小さくても自然を感じる事が出来る新しい「ハニービーガーデン」を本校が全国に普及させていければと考えています。

地域の保育園で「フジバカマ」を販売し、園芸部には「フジバカマ」を販売し、園芸部のミツバチを熱心に見つめて、特に蜂蜜採取体験は大評判でした。その他地域の保育園をめぐり、この企画をすすめています。また、コロナ禍の影響で延期になりましたが、自宅の庭に、生き物が訪れる、小さくても自然を感じる事が出来る新しい「ハニービーガーデン」を本校が全国に普及させていければと考えています。

FFJ 機関紙リーダーシップ 2022 年秋号に取組みが紹介された